

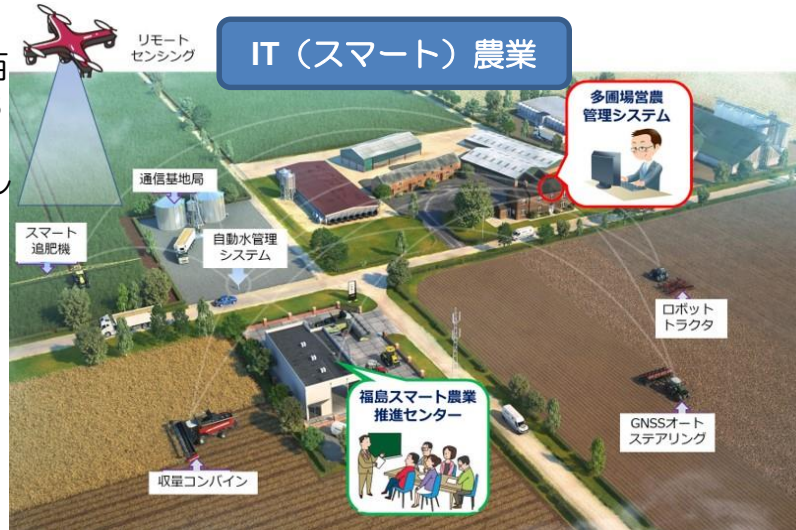


G空間情報活用推進特別委員会(G特)とG特勉強会の開催

G特の開催(9/28)

平成31年度の概算要求61,616百万円（地理情報システム関係32,533百万円、衛星測位関係29,083百万円）及び防災など13件のシンボル事業の進捗状況を政府から説明を受けました。

また、今後のプロジェクト推進ではG空間社会実現(社会実装)に向けて政府は必要な措置、予算を拡充・確保する事、産学官連携の下で福島復興に貢献する事業を加速推進する事等を決議しました。



G特勉強会の開催(6/27)

G空間社会の実現に向けて各シンボル事業毎に専門家による事業の具体化を目的に勉強会を開催中で、6/27は「福島復興事業」をテーマに開催し、事業内容として地元の要望を受けて下記3件を選定しました。

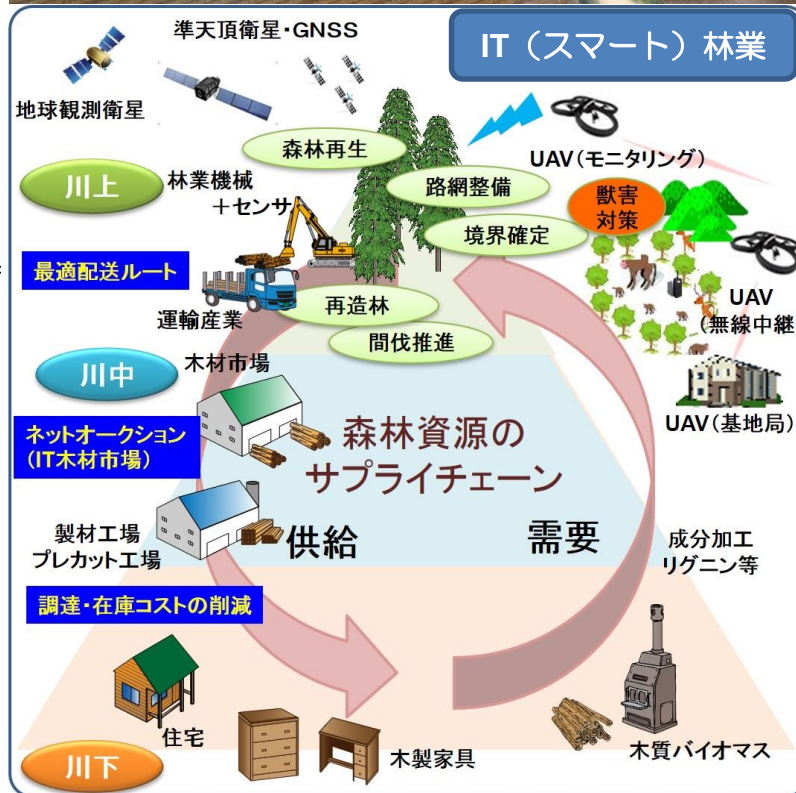
- ・IT(スマート)農業
- ・IT(スマート)林業
- ・自動運転(近未来地域交通)

IT(スマート)農業は、農機の自動走行や農業連携データ基盤の構築など、SIPや産学で開発した技術を統合し、パッケージとして社会実装することで新しい日本の農業の姿を実現するものです。

IT(スマート)林業は、森林資源の活用を川上から川下を結ぶサプライチェーンを構築することで儲かる林業の実現を図るものです。更には福島県の地域特性に合わせた森林認証への取組、帰還困難地域の森林モニタリングなども含まれます。

自動運転(近未来地域交通)は被災地帰還住民の移動手段確保の提案です。

これらはいずれも「地域産業の振興・創出」を目指しており、「福島イノベーション・コースト構想」等とも連携して推進して行きます。現在、地元福島県の産学官各機関などとも連携して推進中です。



平成30年度 G空間EXPOの取組

<http://www.g-expo.jp/>

- ・G空間EXPO2018は11/15(木)~11/17(土)（於:日本科学未来館）開催予定
- ・北海道、中国エリアで地方フォーラムを初開催

産学官が連携して開催する「G空間EXPO」では、企業・団体・行政等の展示・体験イベント等により、G空間社会を支える最先端の技術やサービス等を紹介しています。

また、各地方においても、G空間の取組の紹介や普及を目指す地理空間フォーラムとして展開しており、平成30年度は北海道エリア（札幌市）と中国エリア（広島市）でそれぞれ初開催されました。

北海道地理空間フォーラム in 札幌

開催日:7/18(水)~7/22(日) 参加者:約800名(5日間のべ)

北海道150年記念事業の一環として、地理学・地質学・都市工学・デザインなど幅広い分野の有識者を講師に迎え、各分野におけるG空間情報様々な利活用について紹介しました。

また、G空間情報を活用しての街歩きも実施し、地歴をより深く理解する機会となりました。



中国地理空間フォーラム in 広島

開催日:9/13(木)、9/14(金) 参加者:約350名(2日間のべ)

「平成30年7月豪雨」により一時は開催が危ぶまれた中国地理空間フォーラムでしたが、「災害対応における地理情報の活用を紹介したい」との意向から主催者として参加した広島市をはじめ多くの地域関係者の御協力を得ることで、無事開催することができました。

フォーラムでは「豪雨災害への対応におけるGISの活用」と「地域の地歴を知る」をテーマに講演や街歩きが行われ、災害の最前線で対応した研究者・実務担当者や地歴学者・教育者から今後の地方展開も期待して熱く報告・討論が行われました。



SPACフォーラム(8/24)・ACT国際セミナー(8/31~9/2)参加

第16回衛星測位と地理空間情報(G空間)フォーラム(主催:(一財)衛星測位利用推進センター)が開催されました。(8/24@東京大学伊藤謝恩ホール)

新藤委員長が「G空間社会の実現に向けて」と題して基調講演を行い、柴山副委員長は「G空間」に関する思いを語られ挨拶しました。



第32回国際セミナー(主催(公財)国際研修交流協会)が開催されました。(8/31~9/2@福島県裏磐梯) 額賀顧問が特別講演として「福島復興にかける思い」を語り、江島事務局次長が「G空間社会の実現に向けて~福島復興への貢献~」と題して基調講演を行いました。

また、専門家会議「宇宙技術・地理空間情報技術」では、柴崎先生(東大)の座長のもと、福島県や地元自治体、関係府省庁、産学が参加し、G空間を利活用した福島復興事業について活発に意見交換が行われました。

